



国臨協関信

H.P: <http://www.alpha-net.ne.jp/users2/kansinko/>

平成22年 1月

事務局 〒162-0052 東京都新宿区戸山1-21-1
国立国際医療センター戸山病院臨床検査部内
発行者 三浦隆雄
編集委員 渡司博幸・峰岸正明・久間修平
印刷所 東洋印刷株式会社
☎03-3352-7443



新年の御挨拶

国立病院臨床検査技師協会 関東信越支部 支部長 三 浦 隆 雄



新年おめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、今年こそはとさまざまな決意をもって新年をお迎えのことと拝察いたします。この一年、誰もがよい年となりますように心よりお祈り申し上げます。

旧年中の支部活動におきましては、皆様のご理解とお力添えのおかげを持ちまして、い

ずれの企画も盛会となりました。

支部役員を代表しまして深く感謝申し上げます。

先の読めない変化の激しい時代となりました。いつものように新しい幕が開いておりますが、4月からは国立高度専門医療センターが個別の非公務員型独立行政法人化への移行という大きな節目を迎えることとなります。今後の国立病院機構・国立ハンセン病療養所との人事交流等の関係が気がりではありますが、今置かれている

立場と将来を見据えて、役立つ知識・経験・スキルを日々積み上げることが大切だと思います。

自分の身は自分で守るために、「一日一知」で何かを始めてみることも大事と考えます。

関信支部活動におきましては、この一年もまた「臨床検査の質的向上」と「検査部門の活性化」、そして「人材育成」を念頭に臨床検査専門職、技師長協議会、地区会、国臨協本部との連携交流を深め、情報を共有し、より充実した支部活動となるよう前向きに取り組んでまいります。

なお、支部会期の変更にとともに今期は4月末までの移行期間となりました。このため4月24日は会期の締めくくりとして、「研修会」と「定期総会」そして「退職会員を囲む合同交流会」を同日開催いたします。是非とも多数のご参集で初のトリプル企画を盛り上げていただきますよう何卒よろしくお願いいたします。

本年も支部活動と役員一同に引き続きご支援とご協力のほどお願い申し上げますとともに、会員の皆様のご活躍とご多幸を祈念いたします。



関東信越ブロック事務所統括部医療課 臨床検査専門職 永 井 正 樹

新年明けましておめでとうございます。国臨協関信支部会員の皆様方には、輝かしい新春を健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年中は皆様から多大なるご支援とご協力を賜り、心から感謝を申し上げますとともに、日頃から単身赴任や遠距離通勤を余儀なくされている皆様には、ご自身の体調管理のみならず、ご家族との関係等にもご苦労をおかけしていることに対しまして、心より労いの意を表したいと思ひます。

昨年は第1期中期計画の5年間のまとめを受け、新たに第2期中期計画がスタートいたしました。第2期では業務運営の効率化に取り組み、国立病院機構の長期的な存続のための基盤を築いてまいりましたが、第2期中期計画では、第1期で築き上げた経営基盤を礎として、さらなる医療の質の向上を図り、国立病院機構のネットワークを活用した診療情報の収集・分析・情報発信にも取り組み始めています。

当ブロックの事業について言えば、一昨年の10月から始まった臨床検査試薬の共同入札では、昨年9月末までの1年間でブロック全体として7,800万円の純効果をあげることができました。これも協議会を始め皆様方のご協力により成し得たことであり、心より感謝を申し上げます。また、昨年は新型インフルエンザの流行に困惑させられた年でもありましたが、各施設において迅速かつ適切な

対応をしていただきましたので、臨床検査部門として一定の役割は果たせていると思います。今回流行したウイルスは運良く低病原性のウイルスでありましたが、今後は以前から流行が予想されている高病原性鳥インフルエンザへの備えを万全にしておく必要があると思います。

さて、今年に目を向けますと、いよいよ国立高度専門医療センターが4月から非特定独立行政法人に移行いたします。国立病院機構やハンセン病療養所間での人事交流をはじめ、様々な面において不透明な部分があることも否定できませんが、それによって我々臨床検査技師としての果たすべき役割が変わる訳ではありませんので、社会の構造改革に乗り遅れることなく時代が求める臨床検査を目指して、引き続き自己研鑽に励んでいただきたいと思います。

誰でも自分で出来る範囲でやっていくというのは、生きていくうえにおいて原則であると思いますが、できる範囲を安全圏にだけ留めてはいけないと思います。できる範囲とは失敗しない範囲という意味ではないからです。ときには「無理かもしれない」と思うギリギリのところから自らの身を置いてみることも必要なのではないでしょうか。今年は是非そのような一歩を踏み出す勇気を持って、自分自身に挑戦していただきたいと思います。

本年も引き続き皆様のご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の健康とご多幸をご祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



茨城地区会会長 ……………渡 司 博 幸

新年あけましておめでとうございます。

茨城地区会を代表して関信支部会員の皆様に新春のご挨拶を申し上げます。

昨年の茨城地区会活動を振り返ると、5月に地区総会・研修会を開催し、11月には地区発行紙「いばこみ」の発行を、11月下旬には地区懇親会を行いました。地区会員数が昨年4月に霞ヶ浦医療センターの人員削減により41名から36名と減少はいたしましたが、どの会についても多くの会員に参加を頂き盛会裏に終了することができました。これはひとえに会員皆様の御協力の賜物です。ありがとうございました。

昨年は政権が交代し、本年から医療にどのような影響が出てくるのかまだまだ未知数です。厳しい医療状況が180度開けて急激に明るくなることはあるのでしょうか。ともあれ私達はチーム医療に積極的に参加し、検査技師の力量を最大限アピールできるように努力を怠ることなく、臨床検査業務に勤めていれば、近いうちに道が開けてくることを肌で感じる時が来るのではないのでしょうか。その時を決して逃さず両手でグッと捕まえ引き寄せる力がとても重要です。職場の中でお互いに切磋琢磨してゆくことが最大の策だと思います。年の初めにこんな気持ちを職場で確認し合ってみてはいかがでしょうか。きっと今年も一年間、目標に向かって頑張ろうというヤル気をもってできそうです。

また最近、茨城弁や栃木弁なるものをしゃべる芸人がちらほら見受けられ、TVから流れてくる方言にはホッとした気持ちに包まれます。どこの地方の方言を聞いても優しい気持ちになれるのは、日本人特有のものでしょうか？この地方を愛する力をもって、今後の地域医療を考えてゆけば少しは地方の病院も明るい未来への道筋が見えるような気がします。厳しい医療情勢、何事にも立ち向かう努力も必要ではないのでしょうか。

最後に関信支部役員並びに会員皆様のご多幸と益々のご活躍を祈念して新年の挨拶をさせていただきます。

栃木地区会会長 ……………松 林 守

新年明けましておめでとうございます。

関信支部会員の皆様には健やかに新たな年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

昨年の栃木地区会は、スキルアップ向上に向けた取り組みと致しまして3月に地区会セミナー（2施設4演題）、年二回開催の研修会は6月「医療従事者に対する結核の感染管理とクオオニフェロン」（宇都宮）、11月「ホルムアルデヒドの毒性と規制について」（栃木）を実施いたしました。

今回実施した研修会は、従来理事任せであった事を反省し、施設単位で取り組む事に致しました。また、他職種との連携を深めるため、コメディカルの方々にも研修会参加を呼びかけるなど、新たな取り組みも試みました。その結果、今回の研修会では、お互いの検査科が今取り組んでいる内容や、今後の課題がテーマとして取り上げられ、両施設の特徴が出た研修会でした。また、コメディカルの方々も研修会に多数参加していただき、地区会活動の一端を披露するなど、他部門とのコミュニケーションにも繋がることになりました。

恒例のレクリエーションは、6月に大自然と文化が融合する日光にて「レンジで簡単！豆腐作り」を行いました。工場では豆腐作り以外にも豆乳・寄せ豆腐、ゆば・豆乳デザートなどの試食ができ、大変好評でした。また、企業の理念・品質・衛生管理体制など興味深い話も伺え、我々の日頃の業務に大変参考になりました。

両施設は宇都宮市内の約10kmと隣接した場所にあります。この恵まれた環境を有効に活かし、今年も地区会活動を勢力的に推し進め、両施設の技師のスキルアップと検査科の発展に寄与できるように努力して参りたいと思います。

最後に関信支部役員並びに会員の皆様のご健康とご活躍を祈念して新年の挨拶といたします。

群馬地区会会長 ……………霜 田 重 雄

新年明けましておめでとうございます。

関信支部会員の皆様には初春のお慶びを申し上げます。

群馬地区では栗生楽泉園・沼田病院・西群馬病院・そして高崎病院は昨年10月に新病院が完成し高崎総合医療センターと改名し4施設が新年を迎えました。

世界各地で猛威を振っている新型インフルエンザは、日本でも死者が多数出ており衰える様子が見られません。さらに、季節型インフルエンザやノロウイルス・MRSA等にも注意をしなければなりません。院内感染を起こしてしまいますと病院経営に重大な影響を与えてしまいます。最初に検査情報を得る検査科（部）は、いち早く各部署に情報を上げ、院内感染を未然に防いで頂きたいと思います。また、このような検体を多く取り扱う我々臨床検査技師が感染しない様十分に注意をして頂きたいと思います。

病院経営も厳しい中、診療科の充実の為に医師の増員や7：1看護及びDPCの導入などで、少しでも収入増を図ろうとあらゆる努力をしています。我々臨床検査技師も、大変厳しい状況下にあります。業務改善や経営改善を行う事が重要であります。

また、関信ブロック主催の研修会・関信支部主催の研修会・各地区会及び各県技師会主催の研修会等へ積極的に参加し、決して努力を惜しまず、超音波・細胞診・輸血・微生物等々、各種認定技師の資格を取得し、個々のスキルアップを図り、さらにその上を目指して頂き、チーム医療に貢献し、検査部門の経営参画をして、臨床検査技師を大いにアピールして頂きたいと思います。

最後になりましたが、関信支部役員並びに会員の皆様のご健康と益々のご活躍を祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

千葉地区会会長 ……内 野 徹 治

新年あけましておめでとうございます。

今年も会員皆様の実り多き年でありますよう心からお祈り申し上げます。

国立病院臨床検査技師協会 千葉地区会は昨年7月に研修会・総会を外部施設で開催致しました。

研修会では「基礎的な不規則抗体検査方法と陽性時の対処方法」と題して不規則性抗体同定のポイント、解釈などを中心に講演を行いました。

ご存じのとおり輸血検査は緊急性も高く、直接生命を左右する検査で有り、常日頃より経験・技術知識の習得が不可欠な部門で、会員の皆様も食い入るように講演を聞かれていました。

また 第2回目の研修会は高齢化社会を迎えた今日、職場の患者さんに対しても社会生活においても「介護」に対する知識・技術が検査業務およびあまり遠くない将来に、会員の皆さんにも活かせるものと思われ、2月頃に実技を含めた形式での研修会開催を企画しております。

今年4月にはナショナルセンターの各独立行政法人化・診療報酬改定年でもあり、また昨年の政権交代による不透明な政治状況下で医療環境を取り巻く状況は厳しい現状が続くものと推測され、なお一層の業務改善に取り組まなければならないと思われます。

国立病院臨床検査技師協会 千葉地区会は、県下に同一系列医療機関6施設を有しているという条件をふるに活用し、千葉地区会を通じて業務における知識・技術の交流・医療全般の情報交換を計れる地区会に成るよう、役員一丸となって取り組んでおりますので今後とも皆様のご支援・ご協力をお願い致します。

神奈川地区会会長 ……原 田 哲 志

新年あけましておめでとうございます。神奈川地区会の代表として関信支部会員の皆様には健やかに新春をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

昨年、神奈川地区会では3月7日（土）NHQ神奈川病院研修棟にて、総会を開きました。

総会前に、神奈川病院検査科のご配慮をいただき施設見学・電子カルテ等を各主任技師さんから、運営状況の説明を受けながら意見交換をしました。学術講演として『神奈川病院電子化の現状（研究検査科導入経過）』講師として昨年退官した石川修子検査技師長に報告いただきました。

特別講演として『大学病院長が役人になって思うこと、「医療の質」について』講師として横浜市病院事業管理者・病院経営局長・横浜市立名誉教授の原 正道先生から役人の立場から視点を変えた貴重なお話をいただきました。

昨年は、強毒性鳥インフルエンザの伝播し、突然の豚インフルエンザの発生に4月ころからフェーズ6の世界的流行拡大し、日本でも多数の感染死亡者が出ました。病院では、発熱外来開設、感染予防対策マニュアル等作成・検査科では、検査キットの在庫確保に大変苦労しました。

8月末には、自民党から民主党政権に変わりました。医療政策のキャッチフレーズは「安心の医療」で基本的な政策目的は「医療崩壊を食い止め、国民皆保険を守る」ということになっています。アメリカのオバマ政権においても、最大の政治課題は国民医療の確保であり、国民皆保険体制

の構築となっています。病院を取り囲む医療状況、環境の厳しさを増す中、より良い検査科運営に頑張っていきたいと思っています。

神奈川地区会と関信支部と密に連携をとりながら、会員の支えになるよう運営して行きたいと思っております。

最後になりましたが、関信支部役員並びに会員のご多幸と益々のご活躍を祈念して新年の挨拶といたします。

新潟地区会会長 ……菅 孝

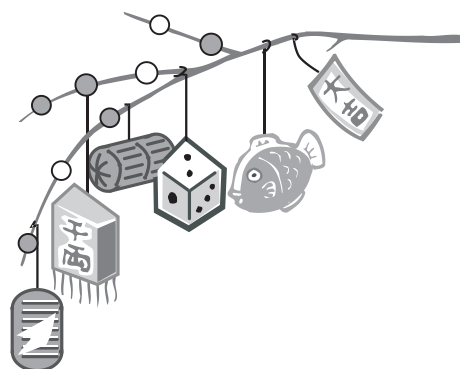
新年あけましておめでとうございます。新潟地区会を代表致しまして関信支部の皆様には新春のお慶びを申し上げます。

昨年の新潟は大河ドラマ「天地人」ブームで越後上越はイベントを始め、観光等で地域が賑わいました。秋には第64回のときめき新潟国体が開催され、地元新潟が天皇杯皇后杯に輝き、多いに盛り上がった一年でした。我が地区会も4月の交流会、9月の支部学会での学術奨励賞受賞、10月の総会・研修会、など交流にスキルアップに充実した年でした。また5年を経過した中越地震、中越沖地震被災者のエコノミークラス症候群予防検診にも地区会会員の参加、協力をいただき「愛」のあるボランティア活動を展開してきました。国内に於いては大きな自然災害もなく平穏な一年であったように思われますが、我々医療関係者にとってはインフルエンザに追われた一年であったかのようにも思います。4月豚インフルエンザに始まり、新型となって6月にはフェーズ6へ、改めて感染症の怖さを感じた時でした。幸に弱毒性で医療関係者は11月に季節性も含めワクチンを打つことが出来、これからも続くと思われるウィルスとの戦いに備えなければなりません。

政権交代後も未だに続く不景気、先の見えぬ民主党政治。最大の関心事は厚生労働大臣の言動です。診療報酬改定、厳しい財政状況など、（身近なところではナショナルセンターの独法化）と今年も不安材料の多い年となりそうですが、こういう時こそ地に足を着け、それぞれの目標に向け邁進する気持ちを持ちたいです。（“ぶれない”ことです。）

政治はブレながら、修正しながらいい方向に進むことを願っています。今年、新潟地区会は創立30年を迎えます。先輩諸氏が作られた30年の歴史に積み上げ、繋がって行けるよう、人材育成を始め、各人がスキルアップへの課題に取り組んでいければと思います。一年間どうぞ宜しくお願い致します。

最後になりますが、関信支部の皆様にとって、本年が最良の年となりますよう心からご祈念申し上げ新年のご挨拶と致します。



長野地区会会長 ……………高 藤 博

新年あけましておめでとうございます。

関信支部会員の皆様におかれましては穏やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は長期の自民政権から、野党であった民主党に変わり、今までとは全く違った様々な考えや方針・方向が示されました。

取り分け「事業仕分け」作業は、鳩山総理が言う「必殺仕分け人」ではありませんが、TVドラマさながらの迫力と緊迫感を感じたのは私だけだったのでしょうか？

また新型インフルエンザが予想もしていなかったブタから更に、予想もしていない地域のメキシコから発生したことは驚きでした。多くの研究者は、トリ型が変異して東南アジアから発生するだろうと推測していたようです。まさに考えてもいなかった事が起きてしまったということです。多くの研究者はどのように感じたのでしょうか？臨床検査も進歩し、ブラックボックス化した結果、それにも似たような現象が起こる可能性が益々高くなりつつあると思います。データを読む力、生化学、血液、免疫検査など総合的なデータの解釈力及び疾患との関連、測定機器の原理及び特性などの知識にいつそう磨きをかけることも必要かと思えます。

昨年、国立病院機構は第二期中期計画を策定し始動しました。国立病院機構職員として、また臨床検査部門としても大いに関連があり、方向性も示されています。幸いにも本部奥田臨床検査専門職が難解な内容を会報2009No65でとても解り易く解説されていますので一度熟読をされたらと思います。またそれらに関連する情報の配信に関信支部に期待します。

今冬はある気象予報士によりますと雪は多いそうです。(カマキリの卵が高い所に産んであったから？)

皆様方のご多幸と益々のご活躍をお祈りし、新年の挨拶とさせていただきます。

山梨地区会会長 ……………川 畑 久

新年あけましておめでとうございます。

関信支部会員の皆様には、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

今年も甲府病院検査室から望める富士山や南アルプスの山々は陽光を浴びて純白に光輝き、私たち甲府病院検査科職員が新たな目標を掲げスタートするにはふさわしい優美な姿を見せております。

昨年は、第44代オバマ アメリカ大統領の就任から始まり、日本においても9月に民主党政権に政権交代となりました。また、日本経済はリーマンショックの余波を受けて100年に一度の経済不況となり、5月には国内初の新型インフルエンザ感染者が確認されました。その後6月にはWHOが新型インフルエンザのパンデミック警戒レベルをフェーズ5から6に引き上げ、世界的な感染の拡大となり、日本に於いても検査薬・マスクが不足する事態が起き一時的なパニック状態と成る等と、ニュースに事欠かない変動・変革・混乱の年でありました。

今年は、診療報酬改定の年にあたります。昨年11月4日の朝日新聞には長妻厚生労働大臣の診療報酬全体の引き上げを目指す考えを示した記事が掲載されていましたが、「薬価は・・・」とあり検査点数はどうなるのか？施設として期待するところであります。

当山梨地区（甲府病院）は昨年より眼科・消化器科・麻酔科医師が採用され病院全体として、明るい兆しが見え始めたなか当検査科においても従前より取り組んでいる業務改善・経営改善に向け提示した再生プランを実行し、着実な成果を上げている所であります。

『疾風に勁草を知る』とあります、技師一人一人が置かれている立場と状況を判断し自ら考え行動する力を付け、そして自己研鑽に励み個々がスキルアップすることにより医療サービスの向上に繋がるように努力したいと思います。最後になりましたが、会員の皆様のご多幸と益々のご活躍をお祈りして新年のご挨拶とさせていただきます。

東京埼玉山梨地区技師長会会長 …市 川 一 三

新年明けましておめでとうございます。

関信支部の会員の皆様には、健やかに新年をむかえられた事とお喜び申し上げます。

昨年は、私たちの生活環境も政権交代と大きな変革がなされ、与党が国民の立場に立った政治改革を目指し新聞紙上で事業の仕分け作業と国家予算の計上の見直し内容が報道され考えさせられる今日この頃、私たちの組織においても、センターの独法化がなされ組織体系がどのように形づけられるのか新しい局面を迎える年でもあります。国民の健康が脅かされる新型インフルエンザについては、日々蔓延し予防接種のワクチン接種が段階的に進められている中で外国産のワクチンの副作用が報じられ厚労省が懸命な情報収集をしています。一日も早く安心できる日常生活が送れるような医療体制が望まれます。私たちは医療を支える一員として各施設で会員の皆様方が日々努力邁進されているところです。国立病院機構の第2次中期計画では、「医療の質の向上」新たに「職種間の協働、チーム医療の推進」が表記されております。ブロックにおいても昨年12月平成21年度チーム医療推進のための研修3（輸血）が開催されたところです。

諺に虎の子があります「虎が子を大切にするように、ひじょうに大切にする物」私事になりますが、昨年関信学会において学会抄録選考委員に選出され、他4名の選考委員の方と会務をやらせていただきました。会務は多くの会員の努力の結晶の選考ですから大変でした、その中で感じたことは選考委員の個々が素晴らしく技師のキャリアを踏まれリーダーの力をありあり示されたことです。日頃なかなか仕事上の話をする機会はありませんが、こうして組織のことになりますと立場を超え、与えられた問題に結果を出せる人たちに会ったことを大切にしたい、又感謝をいたしたところです。職場においても感じるのですが、日々多忙な業務の中で個々が相手を重んじて、業務に立ち向かっています。それぞれが、立場も生活環境も技量も異なり集まっているのが職場です。

今一番思いますのは、一日の大半を過ごす職場環境は明るくあれです。個々の素晴らしい素材が仲間にはぐくまれ開花する職場づくりに目を注いで見ませんか？情勢は厳しいところですが、皆様方の力をもってそれぞれの医療施設で個々の能力が開花できるよう頑張ります。

関信支部の会員の皆様方、今年一年健康で良い年になりますよう祈念いたします。



NH O茨城東病院 …………… 椎 名 将 昭

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、心新たに新年を迎えられたこととお慶び申しあげます。

昨年1月、アメリカでは“Change yes we can”を合言葉にオバマ氏が黒人初の大統領に就任しました。一方、日本では8月の総選挙で民主党が大勝、政権交代が実現し、鳩山内閣が発足しました。偶然にも同じ年に両国にとっての大きな変革の年となりました。この事は何か変わって新しい一步を踏み出してほしいという国民一人一人の思いが結果となって現れたのではないかと思います。

昨年、私も施設を異動し、新たな気持ちで過ごしてきました。施設が変わるたびに毎回少し緊張し、さまざまな気持ちを持って新しい施設へと向かいます。それは不安だったり、希望だったり、どんな職場だろう、自分に何ができるだろうなどという事事を考えながら…そして、いつしかそんな初心を忘れて次への異動となり、はたと考え直す。

“自分は何をしてきたのか？何か残せたのだろうか？”今までの自分を振り返ってみてもそのようだった気がします。今回、新年としてこの様に考える機会を与えて下さったので、しっかりと腰を据えて、自分の立場としてできることを常に考え、検査科さらには病院に貢献できたらと思います。そして、数年後に自分はこの病院でこんな事をしてきたと胸を張って言えるような行動をしたいと考えます。そんなふうに自分も新たな一步が踏み出せたら、何か変われる気がします。

最後に会員の皆様のご健康と益々のご活躍をお祈りしますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しく願い申し上げます。

NH O宇都宮病院 …………… 塩 谷 香 奈

新年明けましておめでとうございます。国臨協関信支部の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになったことと拝察いたします。

昨年四月より、宇都宮病院に採用となり、検査業務や環境の変化に戸惑いを覚えながらも、無事新年を迎えることが出来ました。

しかし、この一年私にとって本当に全力で頑張ったか、と考えるとそうではなかった様に思います。検査業務や新たな土地に慣れただけであり、関信学会で発表させていた

だきましたが、それも技師長を始め先輩技師の方々の手助けがあったからでした。

本年は臨床検査技師になって三年目を迎えます。流れ作業の様に検査業務をおこなっている今、学生時代の先生の言葉を思い出します。「人の痛み・病気の痛みをわかる臨床検査技師になりなさい。届けられた検体一つ一つに患者様の痛みや苦しみがあることを忘れてはいけません。」

今になって私は、これが患者様に対する技師のあり方と、勉強することの大切さを教えていたのだと気がつきました。忙しいルーチン業務ではついつい忘れがちですが、検体検査も生理検査と同じように患者様（検体）に接し、検査内容をよく理解した上で業務を行いたいと思います。

昨年一年間は、生理検査を始め、生化学・血清・血液・一般・輸血検査と、一通り業務を行いました。検査全体を浅くですが把握できたので、本年は毎日の業務から疑問に思った事を多分野の検査と併せて考え、学び、自分自身で学会演題を見つけられるようになるとう思います。また、興味を持っている分野の資格取得にも挑戦しようと考えております。

最後になりましたが、皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

NH O高崎総合医療センター …………… 竹 渕 友 弥

新年明けましておめでとうございます。国臨協関信支部の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

高崎病院に採用されてから早いものでもう4年が過ぎようとしています。そんな中、二年に亘って工事が行われてきた新病院が完成し、昨年の10月より高崎病院は「高崎総合医療センター」と改名し、新たなスタートを切りました。引越しだけでも忙しい中、新しい機器や部門システムの導入、電子カルテとの接続などやる事が山積みで、職員一丸となって取り組み、毎晩遅くまで頑張りました。それから2ヶ月が経過して少し落ち着いてきましたが、まだまだ忙しい毎日を過ごしています。

このように、昨年を振り返ってみると大半の時間を新病院の準備に費やしていたため、自身のスキルアップは棚に上げたままになってしまいました。4年間ずっと病理部門にいますが、細胞検査士取得に向けてがむしゃらに勉強していた2年目辺りと比べると、モチベーションが随分と落ちてしまっているのを感じます。また、他の方に「私はずっと病理で働いています。」と堂々と言えるほどの知識や技術は体得できていないな、と痛感しています。そんな訳で今年は二級病理検査士取得を目指し、病理検査を一から勉強し直そうと思っています。

身体面では、体重の増加が気になります(4年間で5kgも増えました…メタボ!?)。腹回りに付き始めた余分なお肉を落とすためにも、今年こそは継続した運動を始めたいと思います。有言実行!!

最後に関信支部の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。本年も宜しくお願い致します。

国立がんセンター東病院 ……………山 口 卓 哉

国臨協関信支部の皆様、新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私は、平成20年4月に国立国際医療センター戸山病院に非常勤職員として採用になり免疫血清検査を担当していました。そして、平成21年3月より国立がんセンター東病院に採用になり、病理検査を担当することになりました。病理検査業務の薄切作業は不器用な私にとっては一番苦戦し、なかなか満足な標本作製することが出来ず、時間もかかってしまいました。今は大部慣れてきましたが、先輩技師に手伝ってもらったり、教えてもらったりすることも多く、まだまだ技術面や知識面で足りない部分もあるので、努力が必要だと思いました。今年は、院内のカンファレンスや技師会の勉強会など積極的に参加し、認定資格を取得できるように勉強しスキルアップをしていきたいと思います。

最後に、関信支部の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げるとともに、新年の挨拶とさせていただきます。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



NHO横浜医療センター ……………佐 藤 成 彦

新年明けましておめでとうございます。

当院は、今年4月1日に新病院へと生まれ変わります。新病院は、「横浜市 南西部地域中核病院」として南西部地域の中心的な役割を担うこととなります。これは、救急救命医療、小児救急医療および産産期医療等の強化が必要とされます。検査科は、電子カルテを利用して、効率的な業務をめざすと共に、病棟の検体検査は、勤務時間を早朝にスライドさせることで、8時30分には結果報告が完了していること、時間外緊急検査においては、依頼数と緊急輸血の増加を視野に入れて、複数人体制も検討しています。

検体検査の運営体制は、「検査実績課金方式」となり、検査機器、試薬と消耗品は契約業者から供給されます。契約された1項目1件当たりの単価と実施件数を乗じた金額が、業者に支払われることとなります。運営体制の変更にともない、ほぼ全ての検査機器が新しくなる半面、検査件数の絞り込みが、病院経営に重要な鍵となってきます。

現在私は、(社)神奈川県臨床衛生検査技師会役員に就任しています。本技師会は、昨年7月30日から第58回日本医学検査学会(横浜)を担当し、同時に「ケンサEXPO 09」を開催しました。

「ケンサEXPO 09」は、会員が、一般の方々に検査

をおこなうイベントで、53,571名ものご参加を頂き、一般の方々の健康に対する関心の強さを感じました。また本会は、日頃から地域の健康イベントに臨床検査技師が関わる広報活動をおこなっています。その一環として、当院「糖尿病チーム」と本技師会が共催し、地域の方々を対象とした「糖尿病市民公開講座」を、新しくなった横浜医療センターでおこなうことを目標としています。

今後、地域の方々に愛され、必要とされる病院となることを願っています。



NHO西新潟中央病院 ……………土 田 昌 美

新年明けましておめでとうございます。

関信支部会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私は、昨年4月に西新潟中央病院に採用となりました。

臨床検査技師の免許を取得してからは約9年になりますが、非常勤職員として主に睡眠時無呼吸症候群の検査の一つであるPSG検査の専門要員として携わっていました。

採用になったばかりの頃は、他の検査業務の知識がほとんど無に等しくなっていたため業務を覚える事に四苦八苦する毎日でした。しかし生理検査業務担当として9ヶ月経った今では、検査科の皆さんから暖かく指導していただいたおかげで、まだまだ未熟な面は多いのですが、少し成長できたと思っています。

今年の目標として仕事面では、さらなるスキルアップを目指して、研修会や学会等に積極的に参加し、誰からも「信頼される人材」になれるように日々努力しながら業務に取り組んでいきます。

また生活面では、体調を崩し(昨年、不覚にもインフルエンザに感染してしまいました)諸先輩方にご迷惑をかけたので、「体調管理」を重点に基本的な手洗い・うがい等を確実にし予防に努めていきたいと思っています。

最後に皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。



NHQ東長野病院 ……古 田 学

新年あけましておめでとうございます。
 国臨協関信支部会員の皆様におかれましては穏やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は自民党から民主党への政権交代、一昨年におきた金融不安による景気後退などいろいろなことがありました。新政権による新たな試みとして行われた行政刷新会議の「事業仕分け」をみていると、「事業」に対して鋭いメスが入れられていることが分かります。今のところ国立病院機構に対しての話は出ていないようですが、独立行政法人に対する風当たりはかなり強そうで、これからどのような話が出てくるか予断を許しません。また診療報酬についても先行きが不透明です。

このような状況の中で思うことは、のりきるために自分自身のスキルをどのように上げていくかということです。昨年の4月から単身赴任になり、一人でいる時間が増えました。今までは、ただなんとなく過ぎていた時間が多かったような気がします、この時間で何をすることが重要だと思えます。中途半端になっている勉強もあるので、新年を迎え改めて目標をさだめて頑張りたいと思えます。

最後になりましたが、皆様のご健康ご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、本年もご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



NHQ甲府病院 ……小 澤 仁

新年明けましておめでとうございます。

まず、この言葉より会員の皆様にご挨拶いたします。
 今年は、冬季オリンピックが開催されるビックイベントから始まりその他いろいろなイベントも会員の皆様にも予定されている方もいらっしゃる事でしょう。

私事ではありますが、昨年は甲府病院に転勤してアツと言う間に過ぎた1年となっていました。"今年こそ!"といつも思っていますが、なかなか実行出来ませんでした。今年は、何かに向かって動き始めたいと思えます。ただその何かは、まだ漠然としています。

我が家では、3年前から正月にそれぞれの思いを文字にして一年間家の中に飾っています。家族それぞれの目標など思うままに書きますが、何か始めようとするきっかけになると思い続けています。ここでは、家族が何を書いているのかは秘密にしておきます。プライバシーがありますからね！

ある本には"始めの一步がいちばん重い"と書いてありました。『その一步を踏み出す為には、ほんの小さな一步を踏み出す事の繰り返しで進むことが出来るのです』とありました。

私の新年の抱負は、"小さな一步を続けよう"となるでしょう。今までしなかった事をして見ようと思います。これは、検査業務だけに限らずに毎日の生活の中でいつもと違う事をしようという事になります。

日々検査業務に追われる毎日ですが、他にも打ち込める物が見つければ充実した1年を過ごす事が出来ると思えます。昨年と違って、今年は日々変化のある時間をすごしたいと思えます。



国立国際医療センター戸山病院 ……菊 池 智 晶

国臨協関信支部の皆様、新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

今年は4年に一度の冬季オリンピックがバンクーバーで行われます。就職してから始めたスキーにはまっているのですが、私は特に、昨シーズンのワールドカップで優勝したモーグルの上村愛子選手にメダルの期待を寄せています。

御存知の方もいると思いますが、モーグルという競技はコブの雪面を、いかに全身を柔軟に使い美しく滑り、また難易度の高い華麗なジャンプで人々を魅了します。しかし、完成度の高い技ばかりではなく、スピードも求められる競技です。私たち検査技師においても、この競技と同じように、検査を迅速に、正確に行う事が求められます。さらに、検査技師の存在意義をアピールしなければなりません。

検査部内外へアピールするということは私にとって難題ではありますが、今までの経験を生かし、何事にも貪欲な気持ちを持って取り組まなければならないと痛感しております。

患者さんや臨床側からの要望に柔軟に対応し、必要とされる検査技師であるための努力を日々、積み重ねていきたいと思えます。

また当院においては、今年の4月より独立行政法人化となり、さらに、新棟への移転を控えております。新体制に向け、固定観念にとらわれることなく、より良い環境作りに貢献していきたいと考えています。

最後に会員皆様方のより一層のご発展とご多幸をお祈りしますとともに、これからもご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。



災害医療従事者研修会に参加して



NHO災害医療センター
大 野 浩

平成21年10月5日（月）～8日（木）までの4日間、NHO災害医療センター内地域医療研修センター

において、災害医療従事者研修が開催されました。参加施設は、関東甲信越ブロックのみならず、北は北海道東北ブロックの仙台医療センター、南は九州ブロックの九州医療センターまで、全国の災害拠点病院あるいは救急救命センターを有する病院の従事者を中心に集められた19施設95人が参加いたしました。メンバーは各施設医師1名、看護師2名、事務職員1名、コメディカル1名（薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師）の合計5名で1班として構成されます。

講師の先生方は、当院の災害医療センターの救命救急科に携わる先生方、日本全国の各救急医療施設に従事されている先生方や日本DMAT隊員（Disaster Medical Assistance Team）の方々です。また、「地震について」、「災害時の心のケア」、「EMIS」、「病院の脆弱性」など、様々な角度から災害について考える講義もあり、その専門的な知識と内容の深さに大変感銘を受けました。（DMATとは「災害急性期に活動できる機能性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」で、災害医療のシステムの中で重要な役割を果たします。EMISとは「広域災害救急医療情報システム」といい、災害時の情

報伝達の手段です。ともに阪神淡路大震災の経験を契機とした災害医療体制です。）

研修には講義だけでなく、各チームで話し合いながら進めていく、机上シュミレーションや、エマルゴ演習という災害時における病院の多数傷病者の受け入れシュミレーションがありました。エマルゴ演習とは、受講者の約半数を使って、災害現場、搬送、病院受け入れ、また病院内ではトリアージ、本部、手術室、ICU、一般病棟、家族対応などの各担当チームに分かれ、時間の経過とともに、ホワイトボード上で展開する災害シュミレーションです。本番さながら、各チームは慌しく動き始めますが、だんだんとその対応の難しさや判断の食い違いから間違いが浮き彫りになり、時間だけが刻々と進んでいくという事態に陥りました。

また、コメディカルの災害対応という中で、横浜医療センターの中島技師長に講義をしていただきました。実際に新潟中越沖地震に遭遇されたご自身の体験をもとに、検査科としての対応や検査機器の状況など、当時の貴重な写真をまじえて詳しく説明してくださいました。ありがとうございました。

最後になりますが、この災害医療センターの「災害医療」という言葉を、今まではただ漠然と大きなものとしてとらえられなかったことが、今回の研修を通して、何かしらつかめたような気がいたします。今回4日間かけて研修に参加させていただき、検査技師長をはじめ検査科の方々に深く感謝申し上げます。



スキルアップ研修会 に参加して



NHO甲府病院
久 高 果 市

平成21年度スキルアップ研修会が9月30日から10月1日の2日間、国立病院機構本部講堂にて開催されました。

この研修会は、医療職（二）及び福祉職の中間監督者を対象に医療技術者としての意識高揚及び管理業務の基本知識を習得させ、管理者たる資質を有する人材を育成することを目的とする内容でありました。

4月に昇任したばかりの私にとっては、今後の仕事に生かせるのではないかと考え、施設から推薦していただき研修会に参加することができました。

研修会への参加者は、関東信越ブロック内施設から臨床検査部門18名、薬剤部門12名、診療放射線部門17名、栄養部門5名、理学療法部門10名、療育指導部門1名の計63名が受講しました。

研修会1日目は、勝又統括部長の開会挨拶から始まり、その後「職場管理者として必要なこと」と題して、臨床検査部門では水戸医療センター堀口臨床検査技師長はじめ6職種の職場長からご講演していただきました。自分たちが経験し感じたことや実行したことなど特色のある内容で他職種の出来事などに接することができた時間でもありました。午後からは、各職種に別れ、業務上における問題提起によるグループ討議が行われました。臨床検査部門では永井臨床検査専門職の進行のもと、予め用意された設問に各自の考えをまとめ、その後全体で討議していく内容でありました。

設問内容は、普段真剣に考えたことのない内容もあって答えに戸惑うこともありましたが、参加者のいろいろな考えを聞くことが出来たことは大変有意義でした。

また、最近特に鉛筆で字を書く習慣が少なくなったこともあってか漢字が思い出せないなど、冷や汗をかく瞬間でもありました。

研修会2日目は、「目指すべき職場管理者とは」をテーマにグループワークが行われ、9班に分かれ司会・記録・発表・タイムキーパーの役割を決め、現場における問題点や目指すべき方向性について意見をまとめ発表する内容でありました。私の班でも他職種の抱えている問題点や出来事など活発な討議がなされました。午後からはコミュニケーションについて学び、練習問題を考えて討議していく内容でした。この2日間の研修会は、職場管理者について必要なことを各自が考え討議していくことが主でしたので、職種を越えていろいろな考えを聞くことができたことは参考になり、大変有意義な議論ができました。中でもコミュニケーション能力の重要性、コミュニケーションを積極的に持とうとする気持ちが重要であることを特に印象として残り、この研修会で学んだことを職場で実践するよう行動計画表と実践レポート提出の宿題を頂き研修会を終えました。

最後になりましたが、今回の研修会にご尽力をいただいた皆様に深謝いたします。

お知らせ

平成21年度退職会員を囲む 合同交流会

日 時：平成22年4月24日（土） 15：00～17：30

場 所：アルカディア市ヶ谷

同日は、下記の場所において14時まで関信支部定期総会および研修会を開催する予定です。

詳細については後日お知らせいたします。

場 所：東京都中小企業振興公社 秋葉原庁舎

3階第1会議室（JR秋葉原駅徒歩1分）

ルーチンアドバイザー委員

部 門	氏 名	施 設 名
生 化 学	小関 満	国立がんセンター中央病院
血 清	御子柴佳剛	NHOまつもと医療センター中信松本病院
血 液	熊澤 寛子	国立がんセンター中央病院
一 般	長田 健児	国立国際医療センター戸山病院
微 生 物	渡辺 靖	国立成育医療センター
微 生 物	望月 規央	NHO西埼玉中央病院
生 理 全 般	竹内 豊	NHO相模原病院
生理超音波(循)	高橋 康之	NHO西群馬病院
生理超音波(消)	蓮尾 茂幸	国立がんセンター中央病院
病 理	沼田ますみ	国立国際医療センター戸山病院
病 理	前澤 直樹	国立がんセンター中央病院
輸 血	真鍋 義弘	国立国際医療センター戸山病院
輸 血	屋代 達	NHO栃木病院
シ ス テ ム	北沢 敏男	国立国際医療センター戸山病院
シ ス テ ム	宮澤 寿幸	NHO長野病院
全国委員副委員長		
	吉田 和浩	NHO災害医療センター
国臨協本部(監事)		
	田島 紹吉	NHO相模原病院
国臨協本部理事(総務)		
	此崎 寿美	国立国際医療センター戸山病院

日常検査の疑問点等がありましたら、お気軽にお問い合わせください。



平成21年度 第1回 支部主催研修会(心電図)



NHO埼玉病院
堀 内 久 実

平成21年10月10日（土）に国立がんセンター中央病院において、国臨協関信支部主催による「心電図セミナー」が開催されました。

昨年のベーシックコースも受講しましたが、今回の講義では虚血性心疾患など昨年よりも臨床的な講義だと聞き、日常業務にいかせると思い参加しました。

講師は（株）日本光電工業研修センターの相馬健先生で「モニター心電図ステップアップコース」として心臓や心電図の基礎、心筋梗塞などの虚血性心疾患の講義を受講し、最後に12誘導心電図の総合判読練習をしました。

現在、生理機能検査全般に携わっており、心電図検査にも携わる機会が多々あります。心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患の患者様も多いため、専門書などで勉強をしていましたが、「STが上昇したり低下したりする」のか、「梗塞部位や冠動脈の梗塞部位によって梗塞波形が出現する誘導が違う」のか、「心筋梗塞の経時的変化」、「急性・陳旧性の心筋梗塞の違い」などを分かりやすく講義して頂き、より深く理解し再確認することもできました。今後の日常業務にいかしていきたいと思います。

最後になりましたが、ご多忙のなか講義をして頂きました相馬 健先生に深く感謝を申し上げますとともに、研修会を企画、開催していただきました関信支部役員の皆様に厚くお礼を申し上げます。



平成21年度 第2回 支部主催研修会(一般検査)



NHO栃木病院
小 林 伸 彦

平成21年11月21日（土）、国立がんセンター中央病院において第2回国臨協関信支部主催研修会（一般検査）が開かれました。当日は寒い日にもかかわらずたくさん

の参加があり、会場は参加者の熱意に包まれていました。

講師には、東京大学医学部付属病院 検査部 第三部門一般検査室 副技師長 宿谷賢一 先生をお招きし「尿沈渣鑑別のポイント」という演題で講演をしていただきました。講義内容として始めに尿沈渣鑑別の基本的なポイントを教えていただき、細胞集塊を中心として典型的な細胞、円形の細胞、がん細胞の見方とかなり高度で幅広い内容でした。さらに、微分干渉顕微鏡といった細胞表面を観察できる珍しいスライドも初めて見る事ができ、とても充実した講習となりました。

私は当直明けで参加したので始まる前は「途中で眠ってしまうのでは？」と思っていましたが、宿谷先生の巧みな話術、さらに使いまわしのスライドではなく、この研修会のために8割もの新しいスライドを作っていただき、それを使った話に引き込まれ、気付くと最後までしっかりと聴くことができました。

講義の中心であった細胞集塊の見方では、まず集塊の辺縁の細胞をよく観察して、そのあと細胞集塊は個別の細胞よりも情報量が多いので、集塊内の鑑別しやすい細胞を見つけていく事が重要だと教えていただきました。このような見方を少しずつ訓練していけば、集塊への苦手意識も改善されると思いました。

この研修会を受講して、一般検査（特に尿沈渣）は誰にでも出来る簡単な検査ではなく、奥の深い検査で判断に困るような細胞もしっかり判別し、またなにを臨床に返すかなどしっかりと見極めていくことが大切であると知り、それを正しく行うための自己研鑽が必要であると感じました。今回の研修をルーチンや認定一般検査技師の試験に役立てていきたいと思っています。

最後にご講演をいただいた宿谷先生、研修会を企画していただいた関信支部役員の方々に心より感謝申し上げます。



●●第29回国臨協関信支部新潟地区会定期総会及び研修会を終えて●●

NHO新潟病院 霜 田 由美子

平成21年11月7日14時より新潟県柏崎市にある新潟病院の臨床検討会室において第29回国臨協関信支部新潟地区会定期総会及び研修会が行われました。

当日は立冬とはいえ、良い天気恵まれ5階会場から望む日本海と水平線は最高の眺めでした。5月に民間より非常勤職員として採用になった私にとっては、他の病院の方々とお会いするのも総会も初めての経験でしたので、何日か前から緊張していましたが、最高の眺めでほっと一息つけました。

また、新潟地区会のためにご多忙の中、関信ブロック事務所より永井臨床検査専門職、関信支部より三浦支部長、林事務局長にご臨席賜りましたので、会がとても引き締まったように感じました。

研修会では最初新潟病院診療部長の小澤 哲夫先生より「遺伝子検査の現状と今後の課題」についてご講演を頂きました。「遺伝子」という身構えがちな分野でしたが、遺伝子の歴史やDNA配列から遺伝子診断・治療まで聞くことができ、大変勉強になりました。次に、永井臨床検査専門職より現状の臨床検査の体制からブロック採用試験、試薬共同購入、精度管理の結果、認定試験、ナショナルセンターの今後などの詳細についてご講演いただきました。私にとっては、聞くことがとても新鮮に感じられたとともに国立病院機構の一員として頑張りたい気持ちになりました。

新潟地区会定期総会は平成20年度経過報告、会計報告、会計監査、平成21年度予算案が承認され、次期役員を選出し終了しました。

時期役員は会長：菅 孝(さいがた病院)、副会長：南雲 伸夫(新潟病院)、理事：古江 裕史(西新潟中央病院)、千葉 雅裕(さいがた病院)の方々となりました。(敬称：省略)

研修会および総会終了後、懇親会を市内の割烹で行いました。懇親会は新潟病院の中島技師長の挨拶で始まり、川柳・ビンゴ大会・各病院の個性あふれる紹介が行われ、終始和やかな雰囲気の中で「あっ」という間の2時間でした。

川柳は西新潟中央病院の前山田新潟地区会会長の発案で、新潟地区会員に新潟ときめき国体にちなんだ川柳を事前に書いてもらいました。当日、その中から良いと思われる川柳を全員に2句選んでいただき、優秀作3句を選びました。

ここで優秀作3句を紹介いたします。1位「単身で 料理の腕も 金メダル」2位「もう見れない 次の国体 あの世から」3位「災害を乗り越え羽ばたく トッキッキ」。私がいいなぁと思った川柳は「何?国体?それよりなにより 県学会」でした。

閉めは、さいがた病院の菅技師長の1本締めにてお開きとなりましたが、本当に楽しい懇親会でした。

最後になりましたが、ご講演して頂きました小澤 哲夫先生、永井臨床検査専門職、そして関信支部役員の三浦支部長、林事務局長様に心より感謝申し上げます。



●●第2回栃木地区会研修会に参加して●●

NHO栃木病院 市 川 遼

平成21年11月20日(金)栃木地区会主催の第二回研修会「ホルムアルデヒドの毒性と規制について」が栃木病院にて開催されました。

ホルムアルデヒドは、蛋白凝固作用があり、そのため院内では病理検査室、OP室、内視鏡検査室で主に組織検体の固定にホルマリン液として利用されています。しかし、ホルムアルデヒドは生体に対して有毒であり、有害物質として様々な毒性を持つことが問題となっています。平成21年3月1日には、労働安全衛生法の特定化学物質障害予防規則が改正され、健康障害発生リスクが高い化学物質として特化則の特定第2類物質に指定され、作業環境測定が義務付けられ、管理濃度も設けられました。

講演では、ファルマ社によるホルムアルデヒドの毒性と生体への影響、法律規制、取り扱い上の注意事項、発散抑制装置や作業環境測定などの対策を説明していただき、ホルムアルデヒドを取り扱うための知識を得ることができました。その後、栃木病院の病理検査室の現状報告があり、平成21年3月の作業環境測定をふまえ、その対策を実施した結果、ホルムアルデヒド濃度が下がり、管理区分が大幅に改善された実績を聞き、健康管理の上で対策の重要性を強く感じました。

今回の研修会は、病院職員の方々にも関心が高く、検査技師だけではなく看護部門の参加も数多くみられました。これからもこのような勉強会を開催し、検査技師はもちろん、院内スタッフの方々にも参加していただき、知識や交流を深めていきたいと思います。

そして、研修会終了後には栃木地区会の忘年会が行われ、情報交換等を通じて親睦を深め合えたことを嬉しく思っています。



お知らせ

平成22年度関信支部役員公募のお知らせ

役員推薦委員長 小林 和 博
委 員 内 野 厳 治
委 員 原 田 哲 志

平成22年4月の関信支部総会において役員の改選を行います。国臨協関信支部役員推薦規定第2条により役員を公募します。候補者は下記の要領にて委員会に書類を提出して下さい。

記

1. 施設名・氏名・年齢・性別
2. 職務歴
3. 会員歴
4. 国臨協関係役員歴
5. 抱負（簡単に）

締め切り 平成22年3月12日（金）

提出先 〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1
国立国際医療センター戸山病院
臨床検査部 小林 和 博

第3回 国臨協関信支部主催研修会 （超音波）について

開催日時：平成22年1月16日（土）9:00～17:00

場 所：国立がんセンター中央病院

管理棟1階第1会議室

講 師：基礎－佐藤 俊行 先生
（東京医療センター）

腹部－武山 茂 先生
（東京医療センター）

循環器－植松 明和 先生
（国際医療センター戸山）

内 容：超音波検査士認定試験対策セミナー



人 / 事 / 異 / 動

【平成21年10月31日付 辞職者】

氏 名	施設名	役職名
市 毛 亜友実	水戸医療センター	技 師 辞 職
西 海 弘 子	霞ヶ浦医療センター	技 師 辞 職

【平成21年11月1日付 異動者】

氏 名	新施設名	新役職名	旧施設名	役職名
塩 月 絵 梨	水戸医療センター	技師（採用）	がんセンター中央病院	（非常勤）技師

【平成21年11月15日付 辞職者】

氏 名	施設名	役職名
山 田 純 一	水戸医療センター	技 師 辞 職

【平成21年11月16日付 異動者】

氏 名	新施設名	新役職名	旧施設名	役職名
大 澤 俊 之	霞ヶ浦医療センター	技師（採用）	精神・神経センター	（非常勤）技師

【平成21年12月1日付 異動者】

氏 名	新施設名	新役職名	旧施設名	役職名
水 越 寛	水戸医療センター	技師（採用）	がんセンター中央病院	（非常勤）技師

編集 後記

新年明けましておめでとうございます。
会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

皆様方は年末年始いかがお過ごしだったでしょうか？特に、臨床検査技師として、病院勤務者として、医療人として、大晦日やお正月返上で日夜、勤務なさった会員の方もいらっしゃると思います。心より「本当にご苦労様でした」を申し上げます。

関信支部ニュース第177号は『新年を迎えて…』と題して、昨年の心に残った出来事や今年の抱負など多岐多様にわたり投稿して頂きました。

昨年は大きく日本の政権も変わりました。変わったといえば関信支部で支部学会当日に開催していた定期

総会を4月下旬に、会期期間を5月から翌年4月末日と大きく変更したことが、なんと言っても、昨年の大きな出来事ではないでしょうか。政権交代後の今年は「臨床検査技師」にとって、「医療業界」にとってどのような“風”が吹くのでしょうか？心地良い“追い風”、あるいは前に進めそうにない“向かい風”でしょうか。でも、どのような“風”が吹こうと関信支部は、会員皆様と共に英知を集約し前へ進んで行きたいと思えます。

現在の支部役員は本年4月下旬で任期満了となります。残り短い期間ですが精一杯、会員皆様の希望に向けてサポートを行ってまいります。本年も宜しくお願い致します。
副支部長：渡司博幸